

止めよう! 変形労働制 20

「止めよう! 変形労働制」ニュース No.20

全北海道教職員組合

2019.11.19

教員を親に持つ中学生、高校生の声①

中学生が、夏休みの自由研究で「教員の働き方改革」をテーマに研究



●「働き方改革」で、退勤後の持ち帰り残業が日常化

道教組組合員のお子さん(中学2年生)が、夏休みの自由研究として「教員の働き方改革」をテーマにまとめました。その動機は、「働き方改革」として強制的に退勤させられた母が、仕事を家に持ち帰って忙しそうにしている姿を見て、「働き方改革って、何だろう?」と疑問を持ったことです。業務量を減らさずに退勤させて「働き方改革」だと言うことに中学生が疑問を持つのは、当然です。



●日常的に家族とゆっくり過ごす時間もないという実態

自由研究の取材先は、両親とおじ、おば、計6名の教員です。教員の労働時間として、小学校教員の父と、中学校教員のおじの過酷な一日の勤務の実態が表で紹介されています。睡眠時間が4時間半と非常に過酷な実態ですが、いまの学校現場では、決して特異な事例ではありません。

この自由研究では、その実態を次のようにまとめています。

「やったー!お父さん、あと3日も家にいるー!」と言うのは、忙しい中学校教師を父に持つ4歳のいとこのお盆の一言だ。日常的に家族とゆっくり過ごす時間もないという実態である。

5:30	起床
6:00	準備 朝食
6:45	出勤
7:00	勤務開始
8:15	打ち合わせ
8:35	授業
15:10	授業終了
15:45	放課後児童指導 or 会議 打ち合わせ
16:30	分掌・学級に関する仕事 ※退勤時刻
17:50	地域の少年団指導
21:00	終了 帰宅
22:00	夕食
23:00	授業準備・残務整理
1:00	就寝

●日本の学校は「ブラック企業」だ。

このあと、国がすすめる「働き方改革」の実態や、教員の労働について各国との比較などを行ったうえで、「日本の学校はブラック企業だと思う」と結論づけ、次のようにまとめています。

調べて、日本の教員の仕事は働き方改革では簡単には削れないと思った。だから、逆に、少人数学級にして教員を増やすとか、事務職員を増やすとかに力を入れたらいいと思う。こんなに大変でも、教師の仕事に就きたいと思う私の気持ちは変わらなかった。

家族とゆっくり過ごす時間もない。両親の仕事を見て、「働き方改革」で簡単に解決できる仕事でもない。この研究は、教員の両親を持つ子どもからの鋭い視点が見事です。それでも「教師の仕事に就きたい」という夢を、私たちは潰してはいけません。長時間労働を覆い隠し固定化する変形労働導入ではなく、抜本的改善をこそ求めていきましょう。次号では、教員を親に持つ高校生の声を紹介합니다。